

実践報告

札幌市立中島中学校

(1) 研究内容

研究課題：人権教育を基盤とした学校づくり等

- 自他の価値を認め尊重する子どもを育成するとともに、共生（愛のある子ども・教職員集団）をめざし、一人一人の人権意識を醸成する

(2) 実践の内容

【実践①】第1回「全校道徳」全校講演会「命の大切さを学ぶ教室」

○ねらい

- ・ 親の思い、家族の絆、生命の大切さの理解を深めることで、将来の社会を担う心構えをもつ。
- ・ 他人に対する思いやりの気持ちを高め、規範意識の向上を図る。

○学習内容

- ・ 殺人事件被害者遺族の会「宙（そら）の会」幹事 生井澄子氏による「愛する娘を失って～時効廃止への思い」の講演を聴き、被害者遺族の思いについて考えた。
- ・ 被害者やその遺族に対する配慮や協力の意識をもつことで、「思いやり」「人権とは何か」を考え、作文にし、中学生人権作文コンテストに参加した。



【実践②】第2回「全校道徳」全校講演会

○ねらい

- ・ 札幌市のビジネスリーダー等の講演を聴き、講演の中に込められた、未来を担う子供たちへのメッセージを子ども一人一人が受け止め、勤労の貴さや意義を理解し、ふるさと札幌を愛し、地域社会の一員としての自覚をもつ。

○学習内容

- ・ 医療法人社団 土田病院理事長・院長土田 茂氏による「将来社会人になる皆さんへ」の講演を通し、自己の生き方について考えた。
- ・ 「今、自分たちは、問題解決のための基礎的な方法を学び、身に付けている最中であり、考え方や判断力を養うために学んでいること」「失敗を隠したり、責任逃れをせずに、勇気をもって次の行動に移ること」「決断するためには自信が必要であり、その自信を支えるのが知識であること」「他人への奉仕の気持ち、大切に思いやる気持ちもち、仲間を大切に助け合いながら、集団の中で、苦手な人を排除したり、仲間はすれにしないこと」「相手とは対等であり、相手や異文化を認める気持ちをもつこと」等を聴講し、自らを振り返り、自己啓発を行った。

【実践③】第3回「全校道徳」全校講演会について

○ねらい

- ・ 法やきまりの意義を理解し、遵守するとともに、自他の権利を重んじ、社会の秩序と規律を高めるように努める。

○ 学習内容

- ・ KDDIケータイ教室認定講師による、スライド資料、映像教材などを使用した講座を受講する。
- ・ 中学生に起こりやすいトラブル事例を、「怖さ」を実感できる動画を使って紹介していただき、トラブルを回避するためのポイントや被害者にも加害者にもならないためのポイント、万一トラブルに巻き込まれてしまった場合の対処法などを考える。
- ・ 「人権は自分にもあるが、他人にもあること」を常に心にとめ、社会人としての責任と自覚を考える。
- ・ 正義を重んじ、「いじめ」のない社会の実現についての必要性を実感する。
- ・ 「情報モラル」について考え、自己と他者の関わりについて考える。

【実践④】「中島公園」奉仕活動について

○ ねらい

- ・ 日頃から親しみのある中島公園での活動を通して、環境問題や公園の役割について学び、人々の生活・活動と環境の関わりについて理解を深める。
- ・ 地域に貢献する体験的な活動を通して、主体的に地域に関わる姿勢や、よりよい環境づくりを目指す態度を育むとともに、感謝の気持ちを持ち、自己有用感や達成感を味わう。

○ 学習内容

- ・【5月】・「さっぽろっこ環境ウィーク」エコアクションの取組
「鴨々川清掃」「中島公園清掃活動」「学校周辺花壇整備」
- ・【6月】・全校中島公園写生会
講演会 「中島公園の昔、今、そして未来」
中島公園管理事務所 熊谷 玲奈 氏
- ・【10月】・ゆきあかり in 中島公園に向けてのスノーキャンドル（ワックスボール）制作
- ・【1月】・雪中レクリエーション
- ・【2月】・1・2年生 ゆきあかり in 中島公園に向けてのスノーキャンドル制作



中島公園清掃活動



中島公園写生会



ワックスボール制作

【実践⑤】異学年交流「コラボ活動」

○ ねらい

- ・ 異学年の子どもと一緒に活動することを通して、年長の者に対する感謝の気持ちや敬意を持ち、年少の者に対しては思いやりの心を育て、互いを認め合い、尊重する心を育てる。

○ 学習内容

【5月】 旅行的行事の出発前全学年コラボ集会で、学年スローガン、旅程などを紹介し、旅行のために練習してきた合唱曲を披露する。



コラボ集会

【6月】・ 中島公園活動の一環として、3年生主導で1・3年生によるコラボ集会や講演会、中島公園清掃の企画・運営。

・ 2年生主導による全校集会の企画・運営で、各学年の旅行的行事報告。

【1月】 1・2年生合同の委員会による雪中運動会の企画・運営。

(3) 研究のまとめ

① 成果

- ・ 日常生活のみならず、講演会や奉仕活動、集会・行事等では、ねらいや目的をはっきりとさせ、全教職員が一丸となって、自他の価値を認め尊重する子どもの育成に努め、教職員集団と子どものつながりを大切につくってきた。子ども一人一人が、自己有用感をもち、成長を続けているとともに、人権意識も醸成しつつあると考える。
- ・ 講演会で、地域・社会の人たちが子どもに求めている力が他人への奉仕の気持ち、人を思いやる気持ち、仲間を大切にして助け合いながら、集団の中で、苦手な人を排除したり、仲間はすれにしないこと、相手とは対等であり、相手や異文化を認める気持ちをもつことなどを知り、感想文を書くことで深く考え、自らを振り返り、自己啓発を図ることができた。
- ・ 取組を通して、「人権は自分にもあるが、他人にもあること」を常に考え、社会人としての責任と自覚を考えることや、正義を重んじ、「いじめ」のない社会の実現についての必要性を実感する具体的な取組ができ、子ども相互の信頼感を育むことにつながった。

② 課題

- ・ 講演会や活動の時のみならず、日常的な生子どもたちへの問題意識のもたせ方をより一層工夫していく必要がある。

③ 提言「人権教育のすすめ」

- ・ 行事や活動において、付けさせたい力、ねらいを明確にすることで、評価を適切に行うことができ、そのことにより子どもは社会から愛される喜び、愛する意義を感じ、自己有用感を得ることができると考える。それが将来に向かう推進力となり、自他共に人権を意識した生活を生んでいく糧となるのではないだろうか。